

## ＜市議会からの意見と市の考え方＞（※網掛けの意見は計画案を修正したもの等）

No.	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方
1	計画全体	本来、市政戦略編を確定してから分野別計画編を検討すべきではないか。	市政戦略編の提示が遅れたことに関しましては、事務局の進捗管理が十分ではなくご迷惑をおかけしました。なお、まちづくり推進計画における市政戦略編と分野別計画編の関係については、第8回小牧市まちづくり推進計画審議会において、審議会長からも発言があったとおり、トップダウンである市政戦略編と、ボトムアップである分野別計画編、自治体経営編の両輪で進めていくものであり、どちらが後先というものではありませんのでご理解いただきますようお願いいたします。
2		計画期間が令和元年度からであるにも関わらず、計画の策定が令和2年になるのはいかなものか。そのため、指標の基準値や手段等が最新情報でなく違和感がある。	計画の策定が遅れたことについては、これまでの検討会議や前述1で回答したとおりです。なお、現況と課題や手段等は、出来るだけ最新の状況を記載させていただいており、さらに令和元年度以降の状況については毎年報告をさせていただく予定をしております。
3		市政戦略編において、SDGsの17の目標をすべて網羅すべきではないか。	まちづくり推進計画では、市政戦略編における各戦略と分野別計画編、自治体経営編における各基本施策の推進が、SDGsの目標の達成にいかに関与するか、17の目標のロゴマークを記載することで関係性を示させていただきました。そして、まちづくり推進計画全体において、17の目標すべてを網羅しているところではありますが、市政戦略編においてSDGsのすべての目標の網羅は現時点ではできておりません。今後戦略を進めていく中で網羅できていない目標に関連が出てきた際には追加で表示をさせていただきます。
4		施策の体系図において、市政戦略編と分野別計画編との相関関係がわかりやすいように表現する必要がある。	計画の序章「まちづくり推進計画の概要」において、計画の構成や施策の体系図などをお示しているところですが、今後概要版を作成する中でできるだけわかりやすくなるよう工夫をしていきます。
5		SDGsとの関係性を明示したことは大変良いので、各施策とSDGsの目標との相関関係が一目でわかる一覧表を作成した方が良い。	各施策とSDGsの目標との相関関係がわかる一覧表につきましては作成をさせていただく予定です。
6		各基本施策において、設定した指標に関連する参考データは可能な限り掲載すべきではないか。	参考データにつきましては、計画図書の制約上、特に必要と思われるものを精査したうえで掲載していますので、ご理解いただきますようお願いいたします。

No.	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方
7	都市ビジョン1	戦略1の中に「誰一人取り残さない」というSDGsの理念を盛り込んではどうか。	SDGsについてはまちづくり推進計画全体でその理念を踏まえていることから、序章における「7. SDGsの推進」において「誰一人取り残さない」という内容の記載を追記させていただきました。
8		重点事業1-2の指標「子育てについて相談できる人がいる保護者の割合」の基準値96.9%が乳幼児健診の問診票におけるアンケート結果であり実態とかけ離れているため、見直すべきではないか。	重点事業1-2では、「すべての子育て家庭への支援」としています。そのため、こどもの年齢に関わらず常に相談相手がいる環境をつくっていく必要がありますが、まずは乳幼児期において相談相手がいることや行政の相談窓口を知ってもらうことが、その後の子育てにおいても重要であると考えていることから、指標の数値は乳幼児健診の問診票により把握したものとしています。なお、基準値の96.9%は、愛知県の割合97.9%に比べて大きな乖離はなく、算出方法も同様となっています。また、未受診者への対応につきましては、基本施策「健康づくり」の展開方向2にも記載しているとおり、関係機関と連携を図りつつ対応するとともに、妊娠期から子育て期までのすべての保護者が相談できる体制づくりに取り組んでまいります。
9	都市ビジョン2	戦略2の中に「誰一人取り残さない」というSDGsの理念を盛り込んではどうか。	前述7のとおりです。
10		重点事業として議決事件である「都市宣言を行うこと」を謳うことに違和感がある。	人生100年時代を見据えて、市民が生涯にわたって元気に活躍するために、心身ともに「健康」であることが重要であり、すべての市民が積極的に健康づくりに取り組み、互いに支え合う地域づくりを目指していく方針を示したものであり、今後、内容等につきましては十分に議会の意見もうかがっていく予定です。
11		重点事業2-5の指標「市内でプレミアム商品券が使える店舗数」は、今後の経済動向やキャッシュレス決済等の動向が不明であるため、設定すべきではない。	プレミアム商品券の流通ネットワークは市内商業振興の基盤であり、さらには、地域内循環を生み出すための経済的トリガーでもあります。今後の経済動向は不透明ではありますが、市としては現状のネットワーク維持に注力していきたいと考えています。

No.	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方
12	都市ビジョン3	中心市街地や東部地区、名鉄小牧線沿線で北部地区と南部地区についてそれぞれ言及されているが、西部地区についての言及がない。西部地区の道路整備や渋滞緩和策等について言及すべきではないか。	小牧市の発展のためには、市域全体のバランスをとりながら、総合的に施策を推進していく必要があると考えています。当然、西部地区についても整備を進めていく考えではありますが、より分かりやすいよう、西部地区における取り組みについても追記させていただきました。
13		重点事業3-1の指標「中心市街地の来訪者数」の目標値75万人(新図書館45万人、(仮称)こども未来館30万人)は過大ではないか。	中心市街地の来訪者数の増加は、中心市街地の魅力とにぎわいの創出につながるどころです。目標値は施設整備にあたってのそれぞれの目標数値の合計であります。高い目標かもしれませんが、達成に向けて取り組んでまいりたいと考えています。
14		重点事業3-3の中にバイオマス発電等、新エネルギー、循環型エネルギー型企業の支援も盛り込むべきではないか。	省エネルギー設備等を導入する市内の中小企業者に対しましては、平成27年度から、その経費の一部を補助しているところであり、今後も継続的な支援を行っていくことから、基本施策「環境・エネルギー」の展開方向2及び基本施策「商工業」の展開方向2において記載しています。 なお、ご指摘のような各種エネルギーに関する支援については、企業の導入状況等を注視しつつ、より効果的な支援について調査研究してまいります。
15		重点事業3-4の指標「市内でプレミアム商品券が使える店舗数」は、今後の経済動向やキャッシュレス決済等の動向が不明であるため、設定すべきではない。	前述11のとおりです。

No.	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方
16	生活安全	現況と課題において「今後は市民一人ひとりのライフステージに応じた交通安全啓発活動を強化する・・・」と掲げているため、年代別の具体的な取り組みを明示してはどうか。	展開方向1の手段において、「年代ごとに市民のライフステージに応じた体系的な交通安全教育を推進していく」としているところであり、より具体的な取り組みについては、今後事業を展開していく中で検討してまいります。
17	多文化共生	現況と課題の3点目は「専門の窓口を設置し、庁内組織が横断的に連携できる体制づくりが求められる」といった表現の方が良いのではないかと。	ご指摘のとおり今後の課題として、庁内組織が横断的に連携して取り組んでいくことは必要なこととありますので、現況と課題に追記させていただきました。
18	健康づくり	健康寿命が現実とは開きがあるように感じるため、介護保険の認定率を基にするのではなく、国の基準を参考にした方が良いのではないかと。今の数値を採用するのであれば、注釈を付け加えてはどうか。	国の基準に基づいた小牧市の健康寿命はデータがないことから、お示しすることは困難です。そこで、ここでお示ししている健康寿命は、介護保険データを用いたものであり、この指標は国においても補完的指標として位置付けられているものです。なお、この健康寿命の算出方法については、資料編の用語解説において記載する予定です。
19		がん検診に関する指標は、大腸がんと乳がんだけでなく、胃がん、肺がん、子宮がんも設定してはどうか。	現況と課題にも記載しているとおり、国立がん研究センターのがん統計によると、全体では大腸がん、女性では乳がんの罹患率が高くなっています。もちろん、ご指摘にある胃がん、肺がん、子宮がんの検診受診率向上も必要なことではありますが、ここでは、現状分析の結果、もっとも注力すべき種別について指標として設定しているところです。
20		「がん教育」についても言及すべきではないかと。	小牧市では全小中学校において学習指導要領をもとに、小学校6年生の保健の「生活のしかたがかかわって起こる病気の予防」、また中学校3年生の保健体育の「生活習慣の変化と生活習慣病」という授業で、さまざまな生活習慣病とともにがんの予防や仕組み、種類についての学習を行っているところです。がん教育については、授業時間の確保やこころのケア等、様々な課題がありますが、児童生徒ががんについての正しい知識や適切な生活習慣を身につけることは必要でありますので、今後もこれまでの実践を継続していきたいと考えております。 なお、がん教育に関しましては、基本施策「学校教育」の展開方向1に包含しています。
21	幼児教育・保育	現況と課題において「民間事業者による保育施設が増加しているため・・・」とあるが、市が計画的に民間を増やしたので、表現を変えるべきではないかと。また、公立保育園が保育士の質の向上に率先して取り組むべきではないかと。	「民間事業者による保育施設が増加しているため」の文言については、市内の保育施設の状況を客観的な表現で記載させていただいたところであります。今後も公立・私立が情報交換、情報共有しながら、市内全体の保育の質の向上に取り組んでまいります。また、保育士・幼稚園教諭の能力と保育の質の向上については、当然重要なものであり、展開方向2の手段において記載させていただいております。
22		目標に「待機児童を解消します。」と掲げているにも関わらず、待機児童数の基準値が「0人」でよいのか。(0人であると、すでに解消していることにならないか。)いわゆる隠れ待機児童についても、言及すべきではないかと。	指標の基準値は、平成31年4月1日時点のもので0人としています。しかしながら、保育園等への入園の申し込みは常にあることから、ある時点のみを捉えるのではなく、常に待機児童を発生させないための取り組みを継続することが重要と考えています。なお、待機児童には含まれないが保育を希望している児童に関する対応につきましては、実態把握等を行いながら適切に対応してまいります。

No.	該当箇所	市議会からの意見	市の考え方
23	協働・情報共有	展開方向3を「ICTを活用しつつ、情報共有を推進します」としてはどうか。	手段におけるインターネットやSNSなどにICTの利活用が含まれることから、ご理解いただきますようお願いいたします。
24	行政サービス	展開方向4として「選挙において市民が投票しやすい環境整備を推進します」を追加してはどうか。	ご提案いただいた内容については、各展開方向を含めた行政サービス全体として取り組む内容であるため、ご理解いただきますようお願いいたします。なお、選挙における投票しやすい環境の整備については、投票率の向上のためにも積極的に取り組んでまいります。
25		指標は「市民レポートシステムを知っている市民の割合」ではなく「市民レポートシステムにおけるレポート(投稿)件数」としてはどうか。	市民レポートシステムについては、令和元年7月より試行運用を開始したところであり、まずは多くの市民の方に認知していただくことが重要と考えております。なお、市民の認知度が上がることで、件数も必然的に増えていくことから、ご理解いただきますようお願いいたします。
26	行政運営	会計年度任用職員の全職員に占める割合と質の確保について、展開方向もしくは指標において言及すべきではないか。	会計年度任用職員については、行政運営の「現況と課題」において概要を記載しております。なお、行政サービスの維持・向上については、正規職員も含めた職員全体の中で、展開方向1の各手段により取り組んでまいります。
27		業務委託の業務全体に占める割合と質の確保について、展開方向もしくは指標において言及すべきではないか。	業務委託(外部委託)については、基本施策「行政サービス」の展開方向で取り組んでまいります。導入にあたっては、別途規定する「民間委託の推進に関する指針」に基づき、市民サービスの維持または向上、経費節減や事務の効率化、行政責任の確保などの観点から判断してまいります。
28	財政運営	展開方向3において、計画的な基金運用について言及すべきではないか。	健全で計画的な財政運営が必要な状況の中、基金運用(基金の適切な活用、公金運用の推進)については、展開方向3の手段で取り組んでまいります。